

恵庭市 子ども・子育て支援事業計画策定に向けた アンケート 〔就学前子ども用〕

集計結果概要



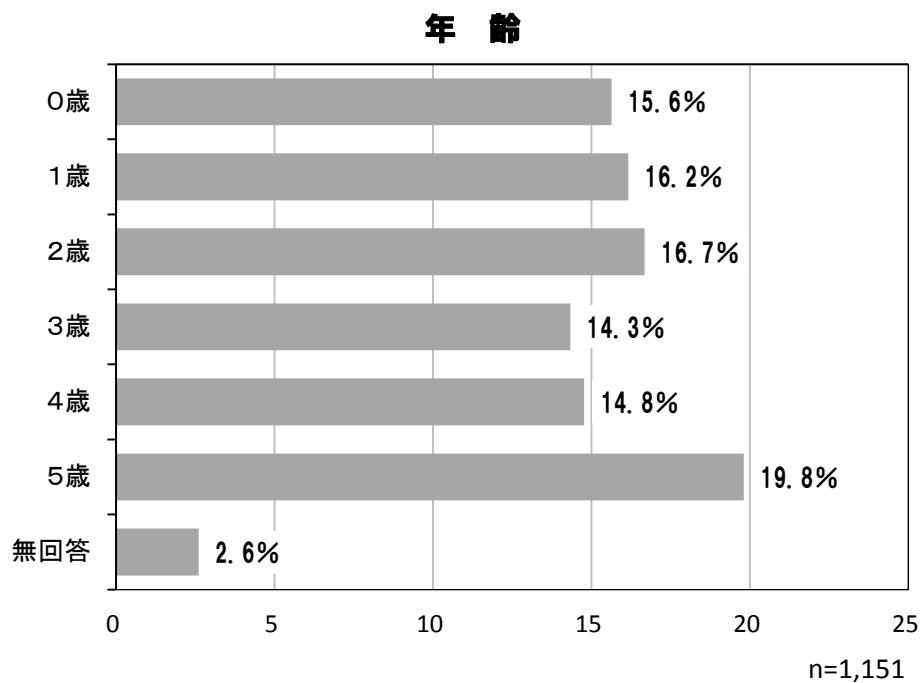
【実施概要】

○平成 25 年 9 月実施

	対象者	配布数	回収数	回収率
就学前アンケート	市内の 0～5 歳の子ども (H25. 4. 1 時点) の保護 者から無作為抽出	2, 000 市外転出 4 (1, 996)	1, 151	57. 7%

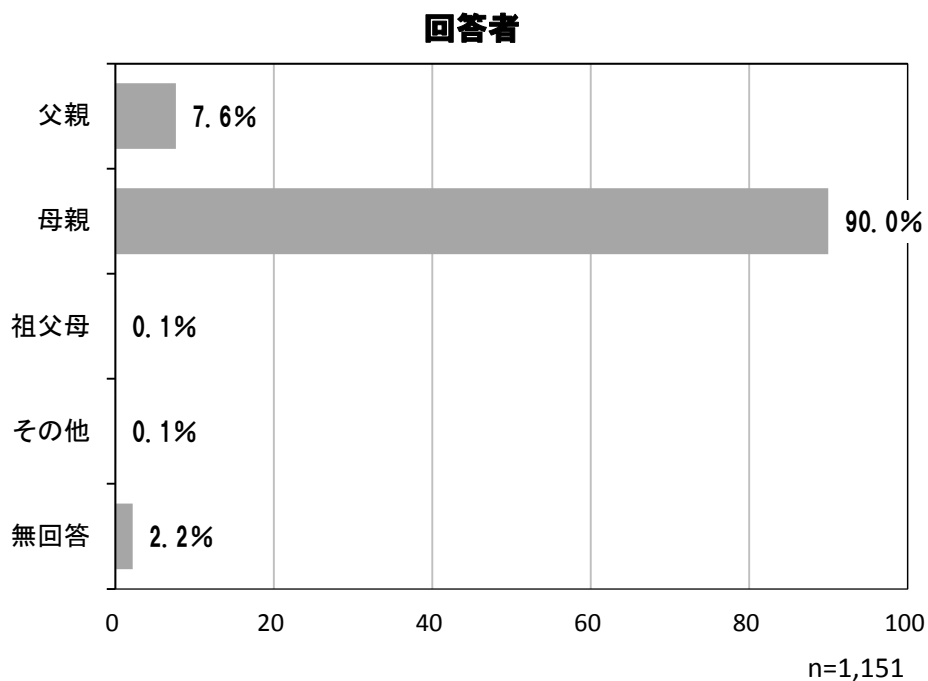
ご家族の状況

お子さんの年齢

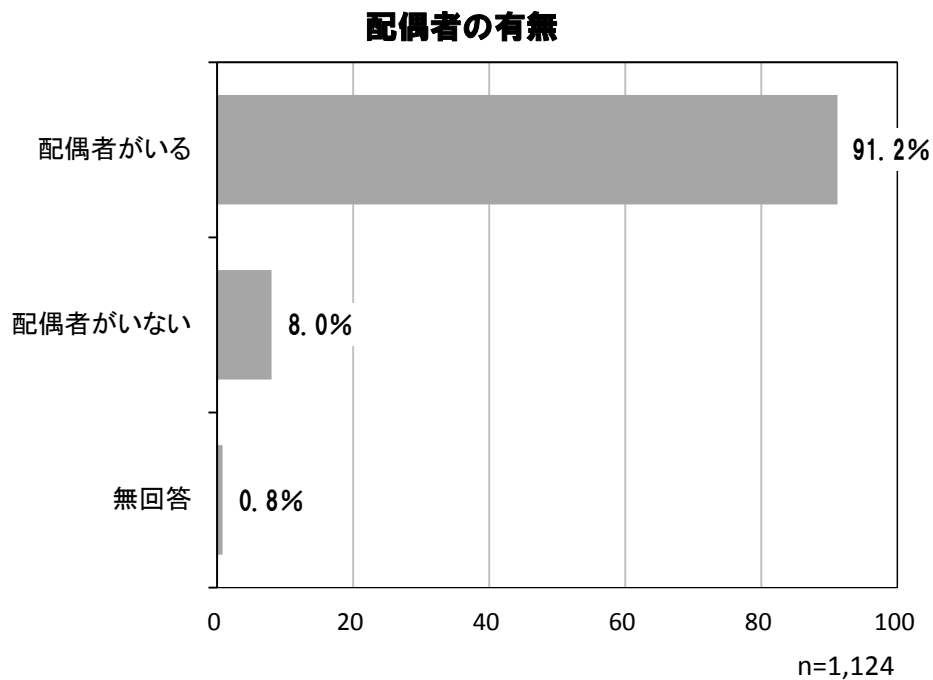


回答者

○回答者は、“父親”に比べ圧倒的に“母親”が多く、このことから子育てに対する役割分担の実態がうかがえる。

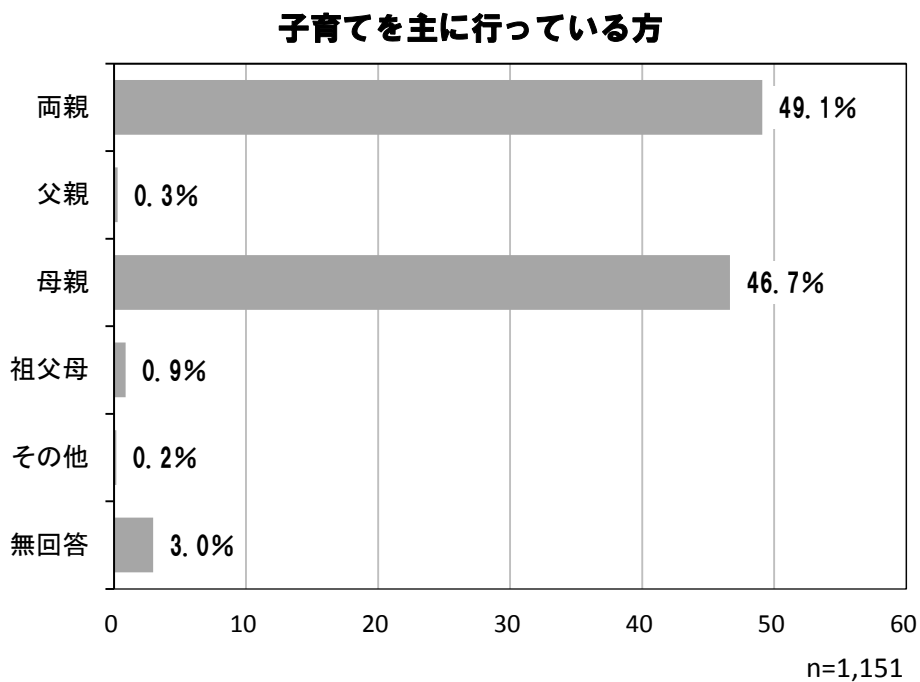


配偶者の有無



子育てを主に行っている方

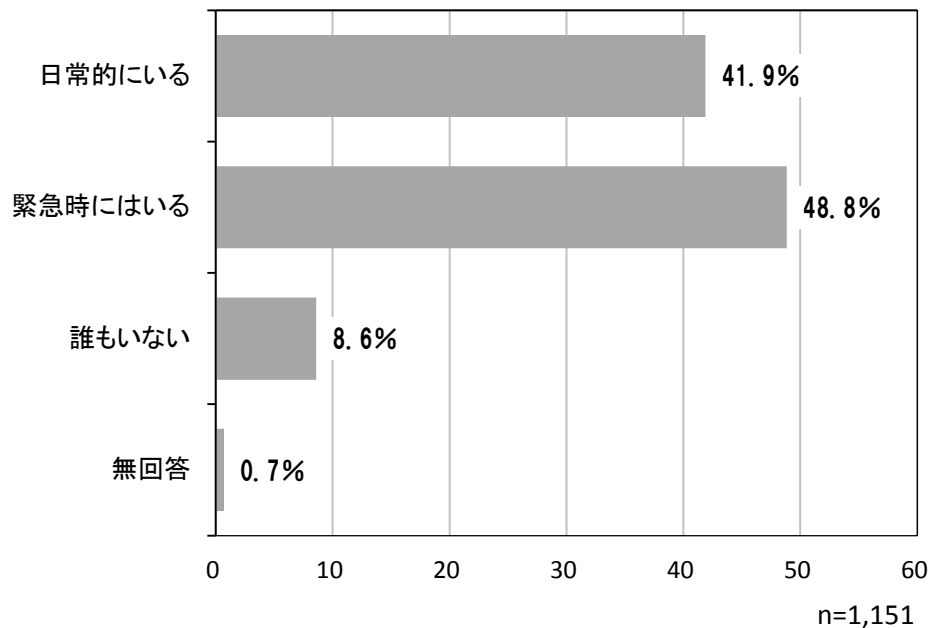
○子育てを主に行っている方については、“両親”“母親”がそれぞれ約半数を占めている。



お子さんの面倒をみてもらえる親族・知人の有無

○お子さんの面倒をみてもらえる親族・知人が“日常的にいる”は41.9%と半数以下であるが、“緊急時にはいる”48.8%を加えると、90%以上の方にはお子さんの面倒をみてもらえる親族・知人がいる状況である。

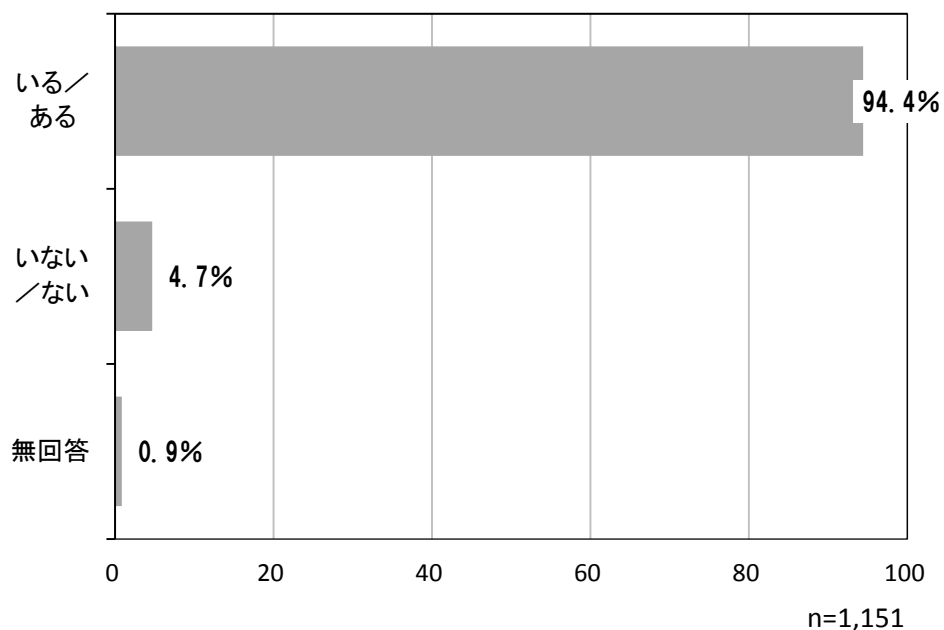
お子さんの面倒をみてもらえる親族・知人の有無



子育てについて気軽に相談できる相手・場所の有無

○子育てについて気軽に相談できる相手・場所が“いる／ある”が94.4%を占める。

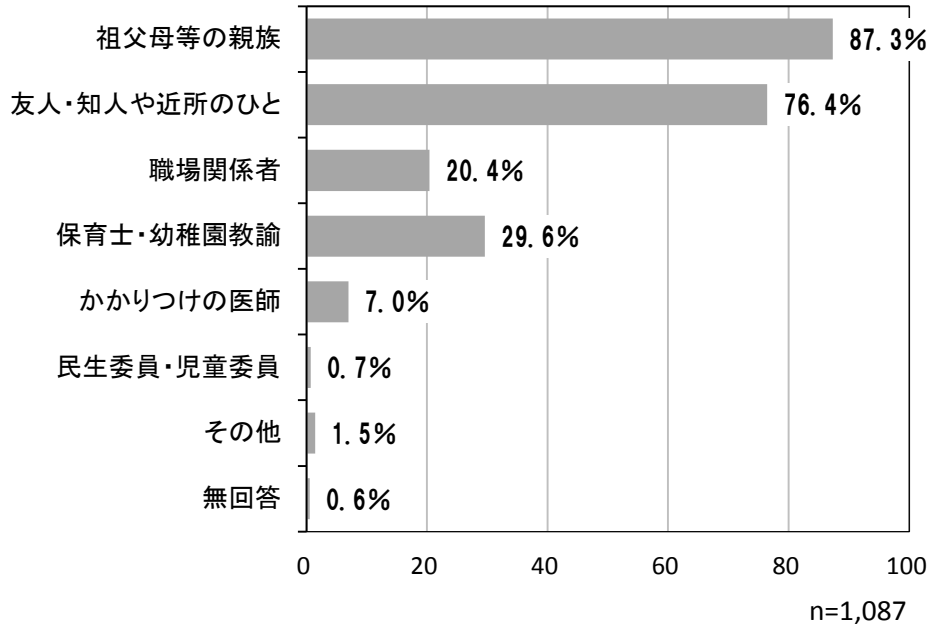
子育てについて気軽に相談できる相手・場所の有無



子育てについて気軽に相談できる相手

○子育てについて気軽に相談できる相手としては、“祖父母等の親族” 87.3%、“友人・知人や近所のひと” 76.4%など、身近にいる人が多くなっている。

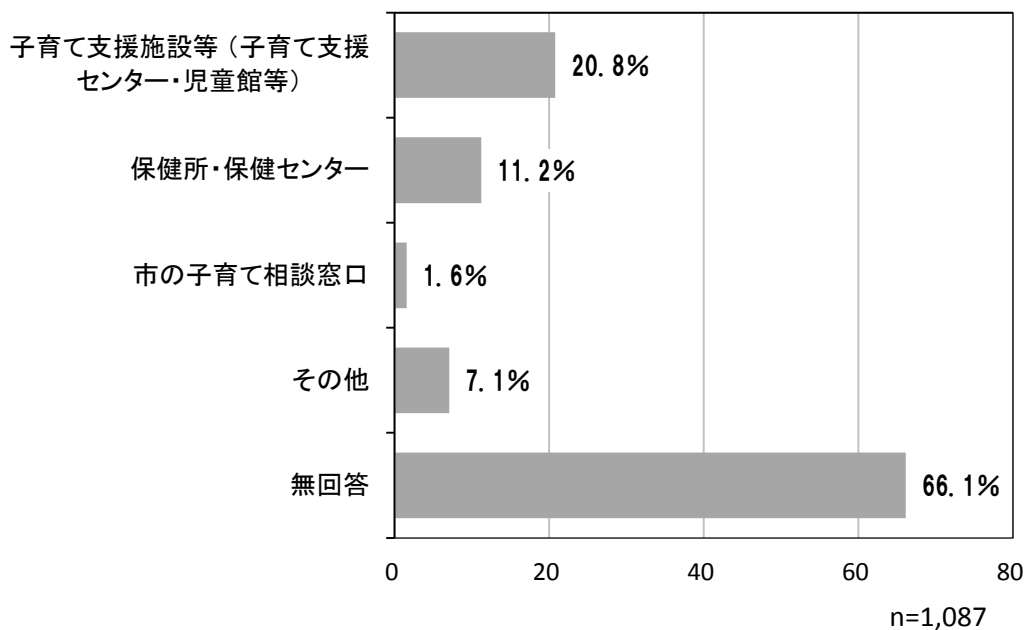
子育てについて気軽に相談できる相手



子育てについて気軽に相談できる場所

○子育てについて気軽に相談できる場所としては、“子育て支援施設等（子育て支援センター・児童館等）” が最も多く 20.8%となっている。

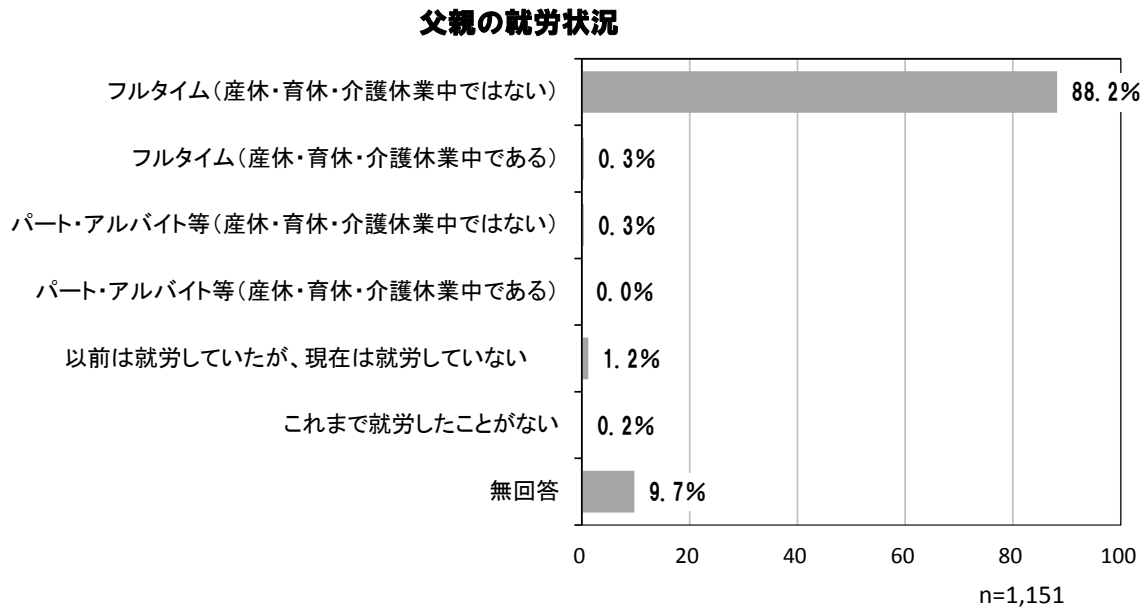
子育てについて気軽に相談できる場所



父親と母親の就労状況

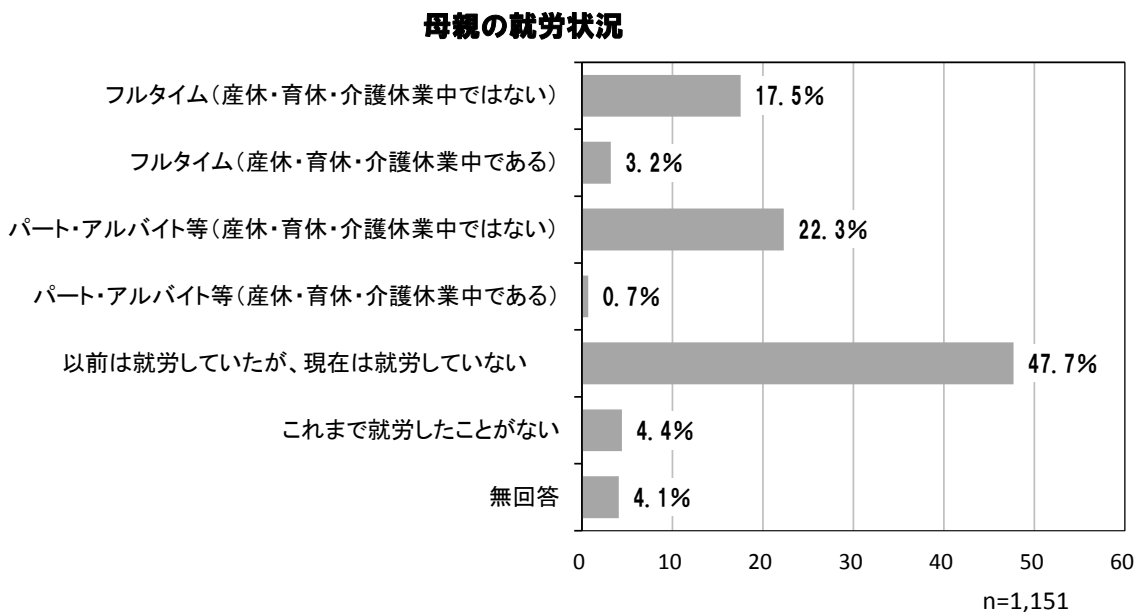
父親の就労状況

○父親については、90%近くが“フルタイム”の就労状況である。



母親の就労状況

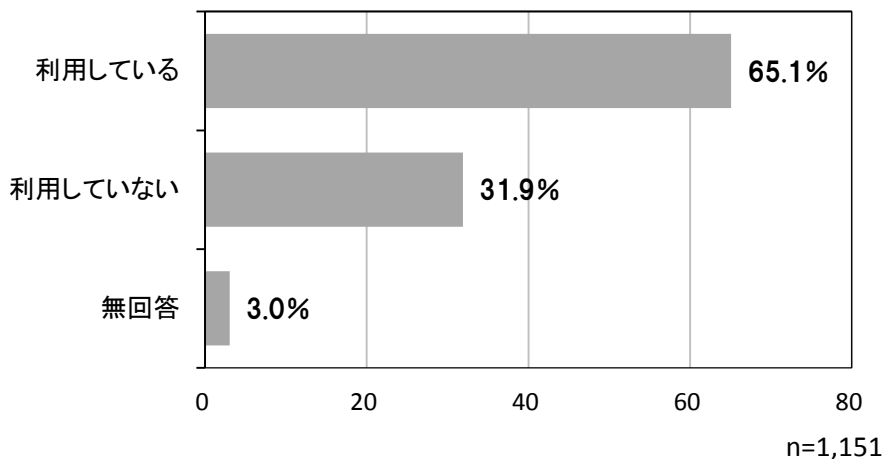
○母親については、“以前は就労していたが、現在は就労していない”が47.7%と半数を占め、次いで“パート・アルバイト等”“フルタイム”がそれぞれ約2割となっている。



平日の定期的な幼稚園・保育所などの利用状況

利用状況

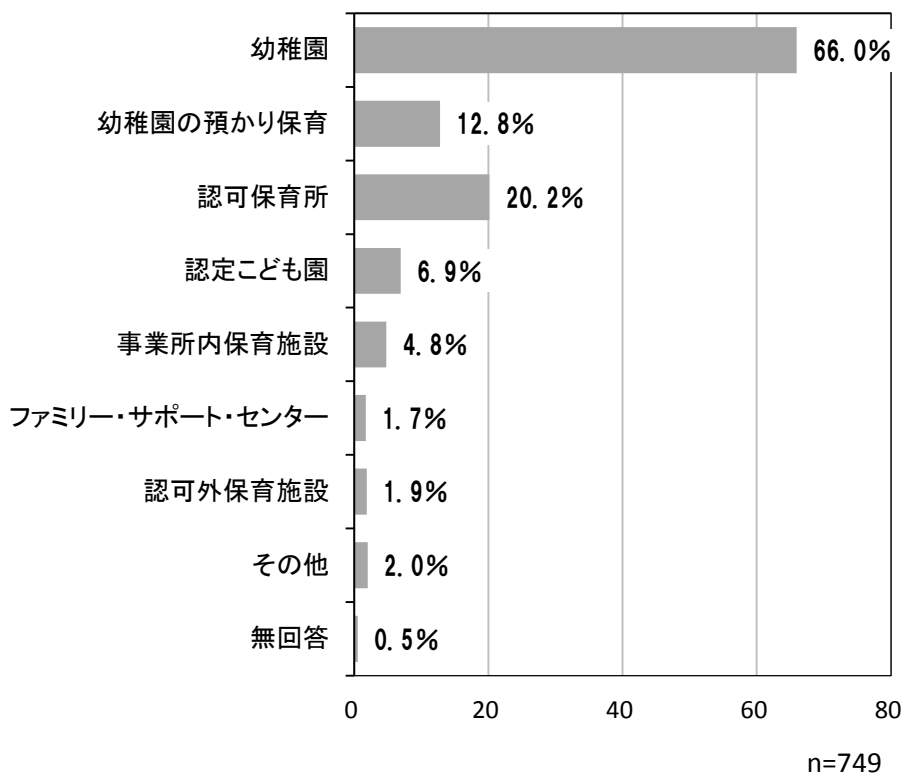
平日の定期的な教育・保育事業の利用状況



利用している教育・保育事業

○ “幼稚園” 利用が 66.0% で最も多く、次いで “認可保育所” 20.2% となっている。

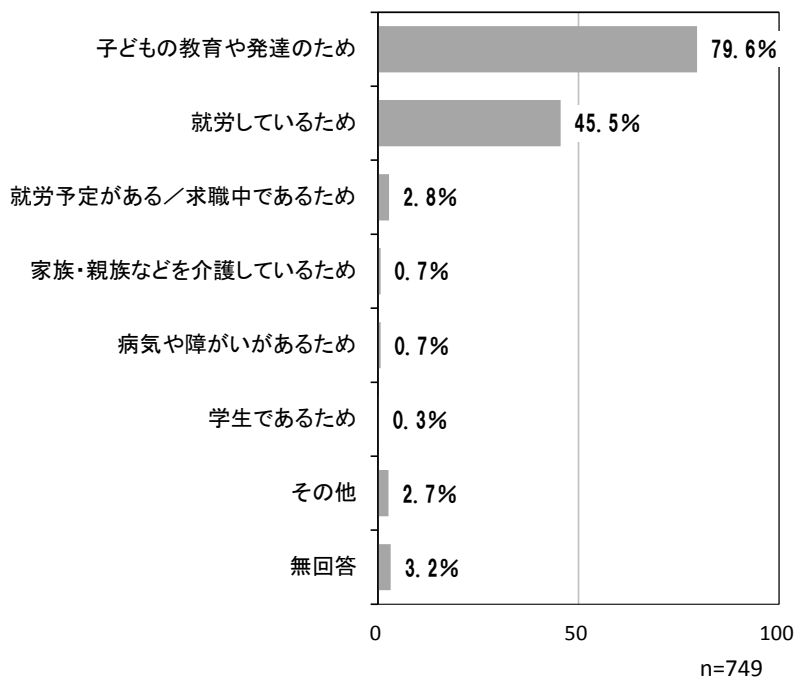
平日に定期的に利用している教育・保育事業



利用している理由

○利用している理由は、“子どもの教育や発達のため”が79.6%と最も多く、次いで“就労しているため”45.5%となっている。

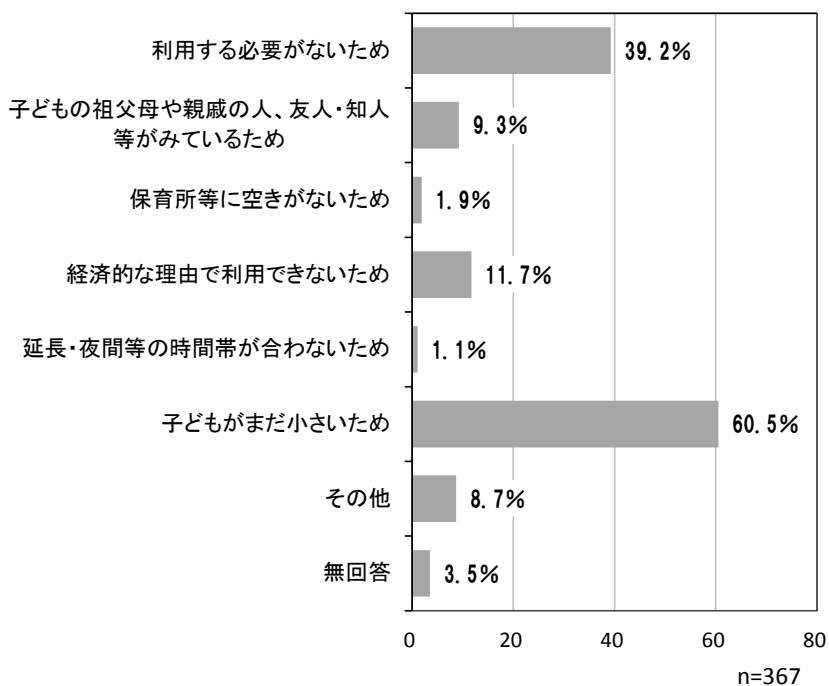
平日の定期的な教育・保育事業を利用している理由



利用していない理由

○利用していない理由は、“子どもがまだ小さいため”60.5%が最も多く、次いで“利用する必要があるため”39.2%となっている。

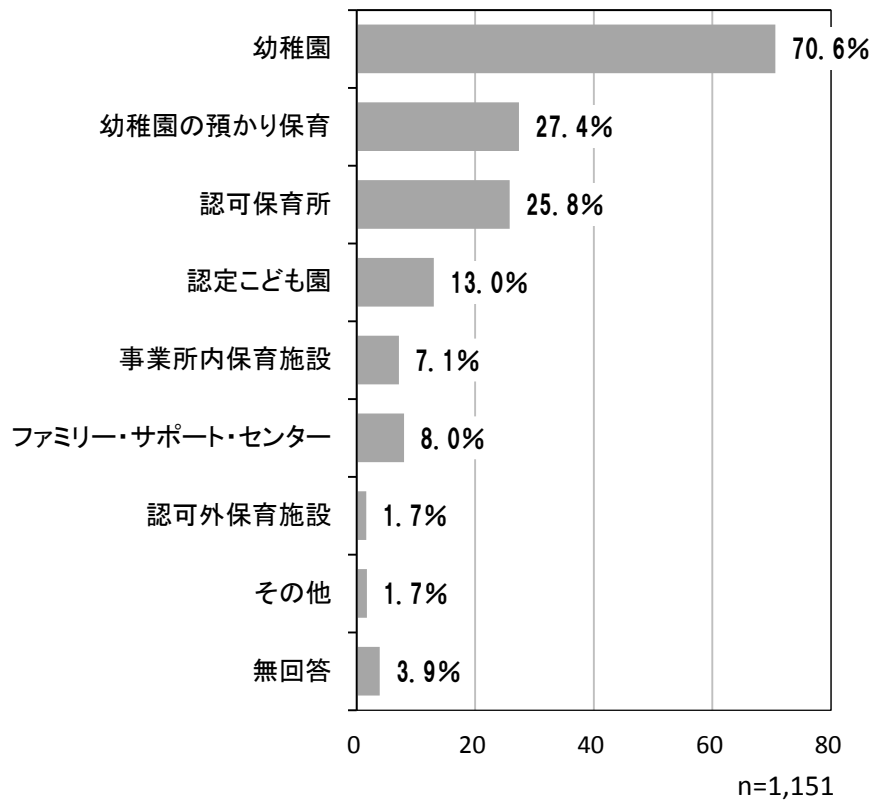
平日の定期的な教育・保育事業を利用していない理由



利用したい教育・保育事業

○利用した教育・保育事業としては、“幼稚園”が70.6%と最も多く、次いで“幼稚園の預かり保育”27.4%、“認可保育所”25.8%などとなっている。

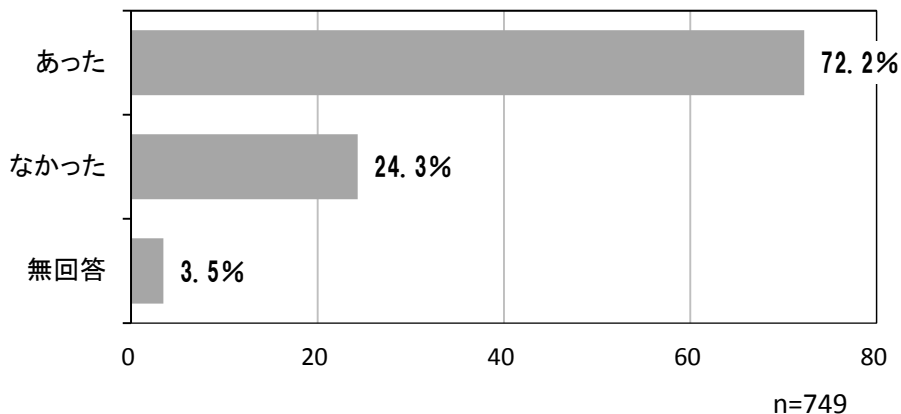
平日に定期的に利用したい教育・保育事業



お子さんが病気の際の対応状況

病気等で教育・保育事業を利用できなかった経験

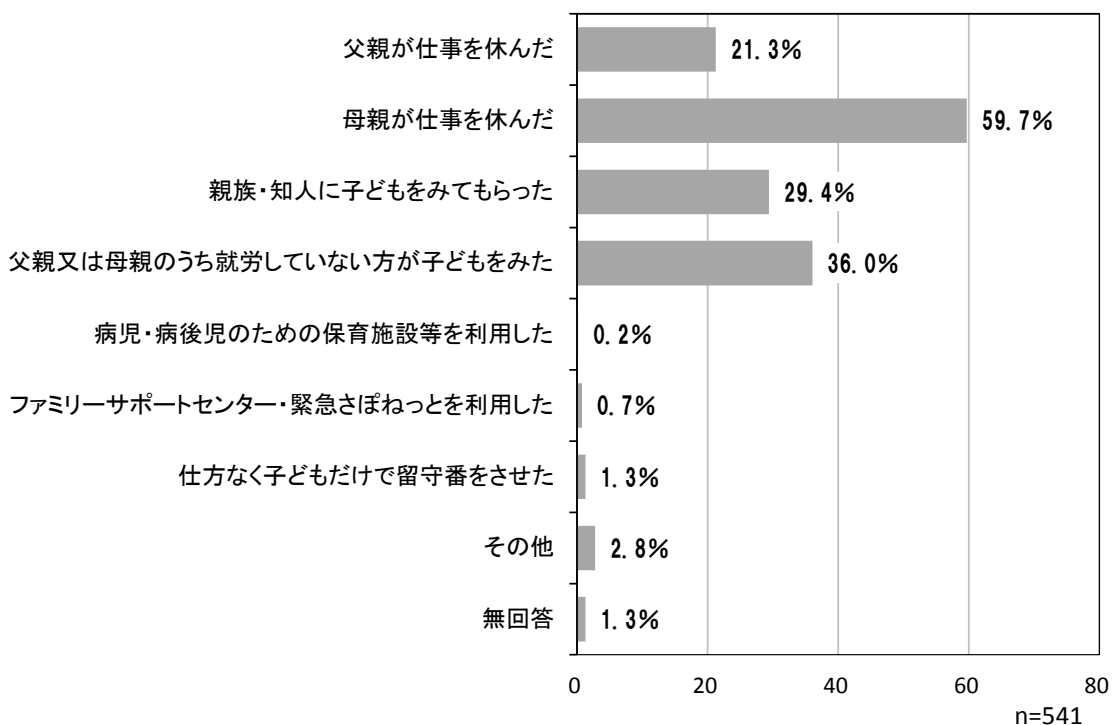
お子さんが病気等で教育・保育事業を利用できなかった経験



病気等で教育・保育事業を利用できなかった場合の対処方法

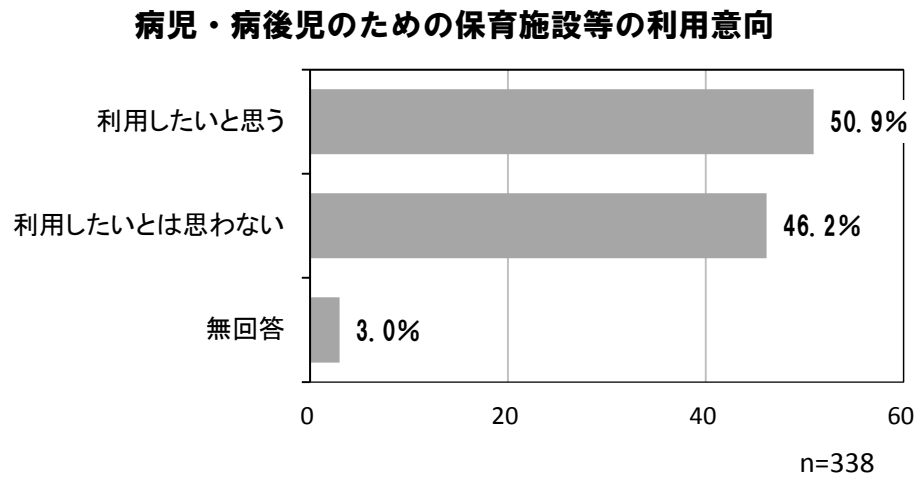
○病気等で教育・保育事業等を利用できなかった場合の対処方法としては、“母親が仕事を休んだ”が最も多く 59.7%、次いで“父親又は母親のうち就労していない方が子どもをみた”36.0%などとなっており、両親以外の人に子どもをみてもらうケースとしては“親族・知人に子どもをみてもらった”が 29.4%あるもののその他の対処方法は極めて少ない。

お子さんが病気等で教育・保育事業を利用できなかった場合の対処方法



病児・病後児のための保育施設等の利用意向

○病児・病後児のための保育施設等に対する利用意向は、“利用したいと思う” 50.9%に対し、“利用したいと思わない” が 46.2%となっている。

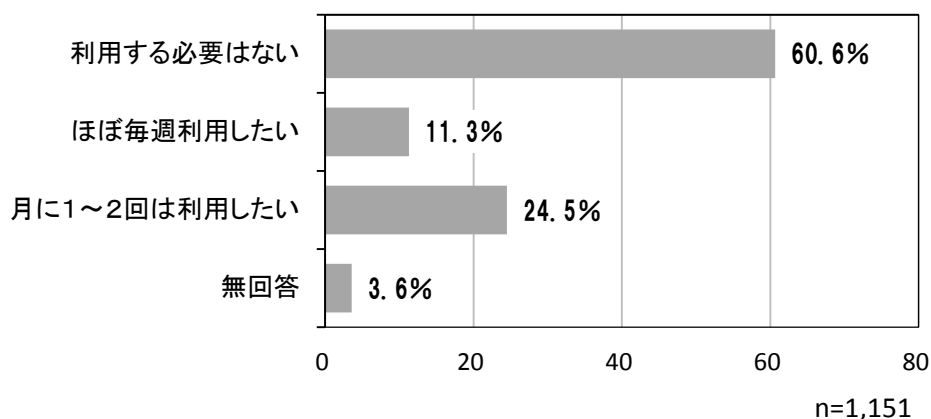


平日以外の幼稚園・保育所等の利用意向

土曜における利用意向

○土曜日の教育・保育事業の利用意向については、“利用する必要はない”が60.6%で過半数を占め、次いで“月に1～2回は利用したい”24.5%となっている。

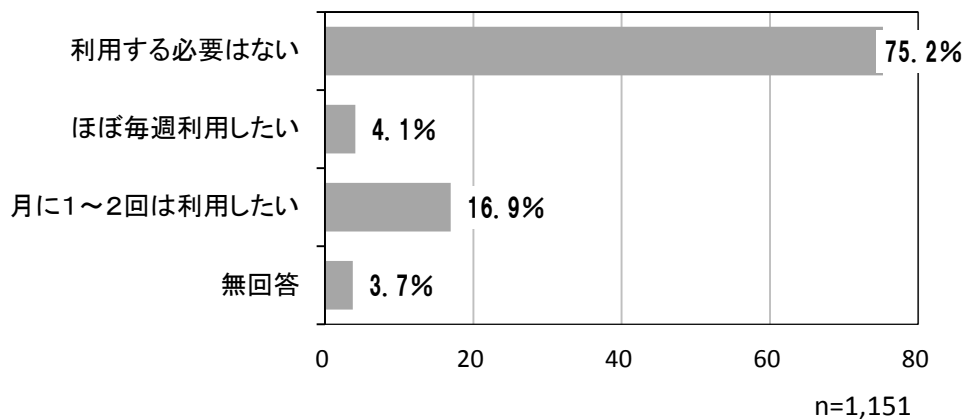
土曜日の教育・保育事業の利用意向



日曜・祝日における利用意向

○日曜・祝日の教育・保育事業の利用意向については、“利用する必要はない”が75.2%で過半数を占め、次いで“月に1～2回は利用したい”16.9%となっており、土曜日に比べると全体的に利用意向は低めである。

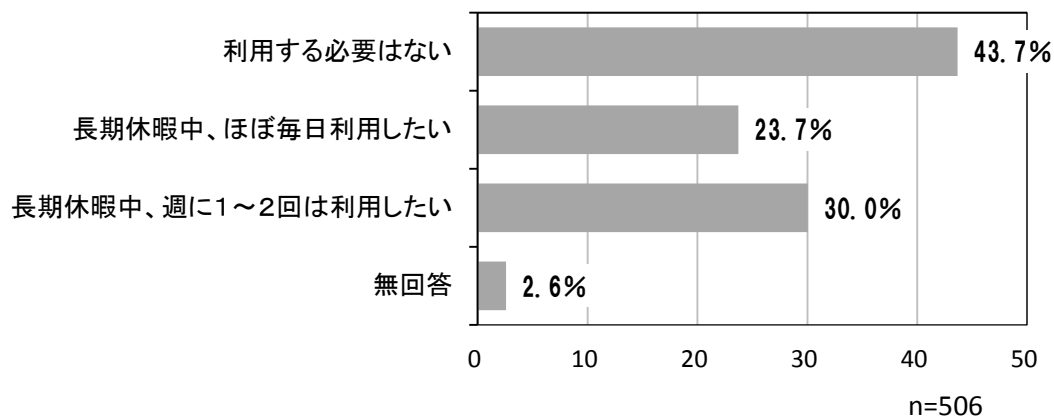
日曜・祝日の教育・保育事業の利用意向



長期休暇中における利用意向

○長期休暇中の教育・保育事業の利用意向については、“利用する必要はない”が43.7%で最も多く、次いで“長期休暇中、週に1～2回は利用したい”30.0%となっており、土曜や日曜・祝日に比べると全体的に利用意向は高くなっている。

長期休暇中の教育・保育事業の利用意向

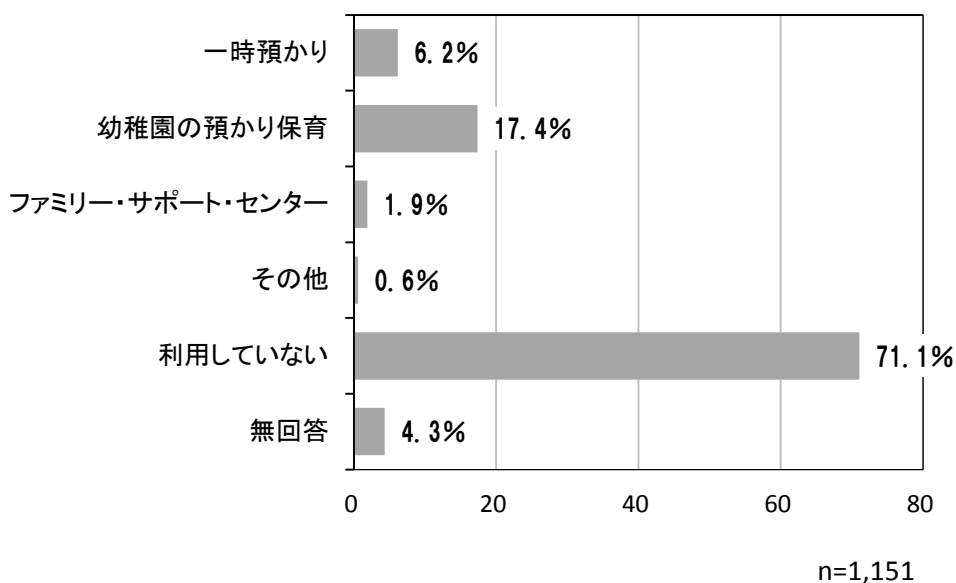


一時預かり等の利用状況

私用等の目的での一時預かり等の利用経験

○私用等の目的での一時預かり等の利用経験については、“利用していない”が71.1%と最も多く、次いで“幼稚園の預かり保育”17.4%となっている。

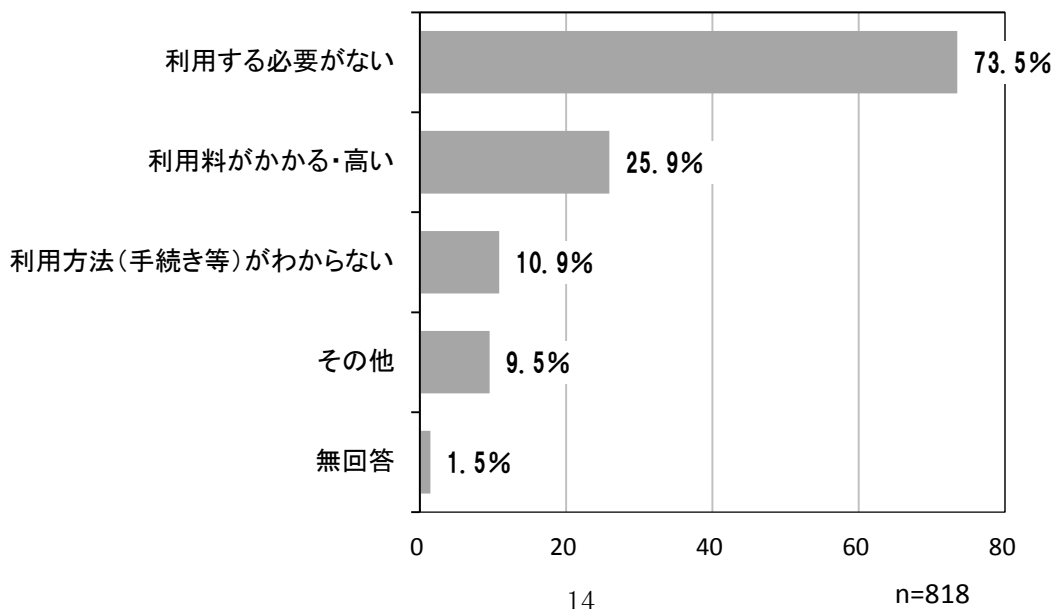
私用等の目的での一時預かり等の利用経験



私用等の目的での一時預かり等を利用していない理由

○利用していない理由としては、“利用する必要がない”が73.5%と最も多く、次いで“利用量がかかる・高い”25.9%などとなっている。

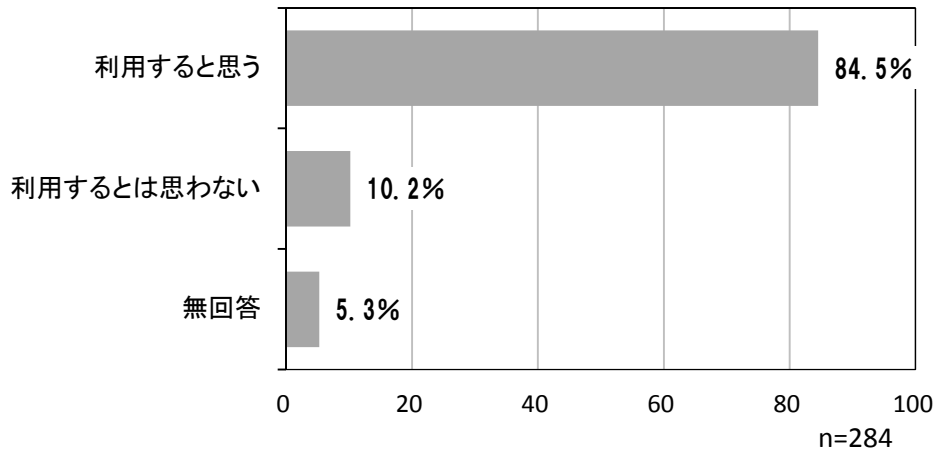
私用等の目的での一時預かり等を利用していない理由



現在利用している人の今後の利用意向

○一時預かり等を利用したことがある人の今後の利用意向は、“利用すると思う”が84.5%となっている。

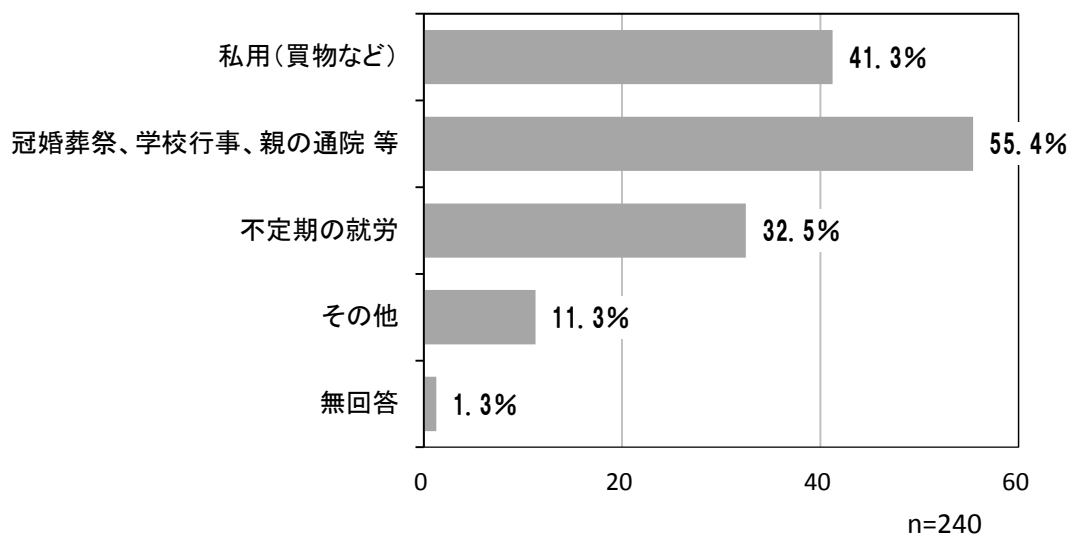
私用等の目的による一時預かり等の利用意向



利用したい目的

○今後も利用したいと考える目的については、“冠婚葬祭、学校行事、親の通院等”が55.4%で最も多い。

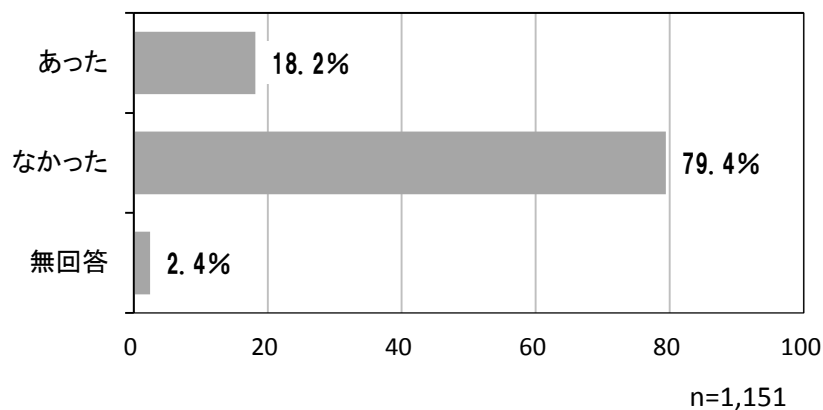
一時預かり等を利用したい目的



宿泊を伴う一時預かり等の利用経験

○宿泊を伴う一時預かり等の利用経験については、“なかった”が79.4%となっている。

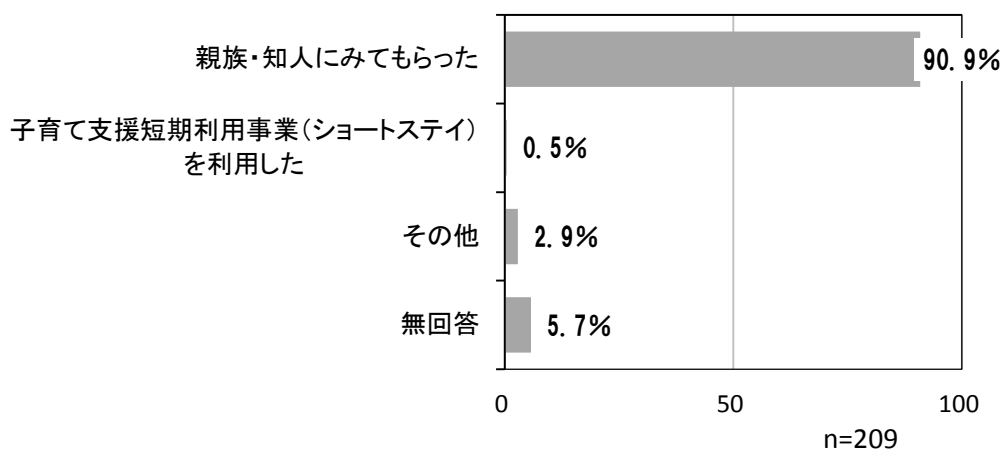
私用等の目的での宿泊を伴う一時預かり等の利用経験



宿泊を伴う一時預かり等の方法

宿泊を伴う一時預かり等の方法としては、“親族・知人にみてもらった”が90.9%となっている。

私用等の目的での宿泊を伴う一時預かり等の方法

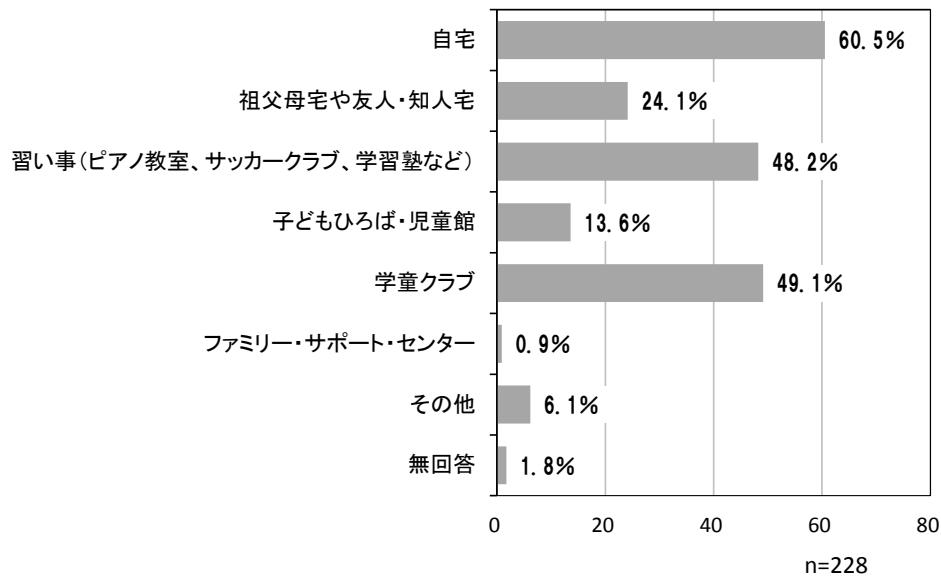


小学校就学後の放課後の過ごし方

低学年（１～３年生）時の放課後の過ごし方

○低学年時における過ごし方としては、“自宅”が最も多く 60.5%、次いで“習い事”48.2%、“学童クラブ”49.1%などとなっている。

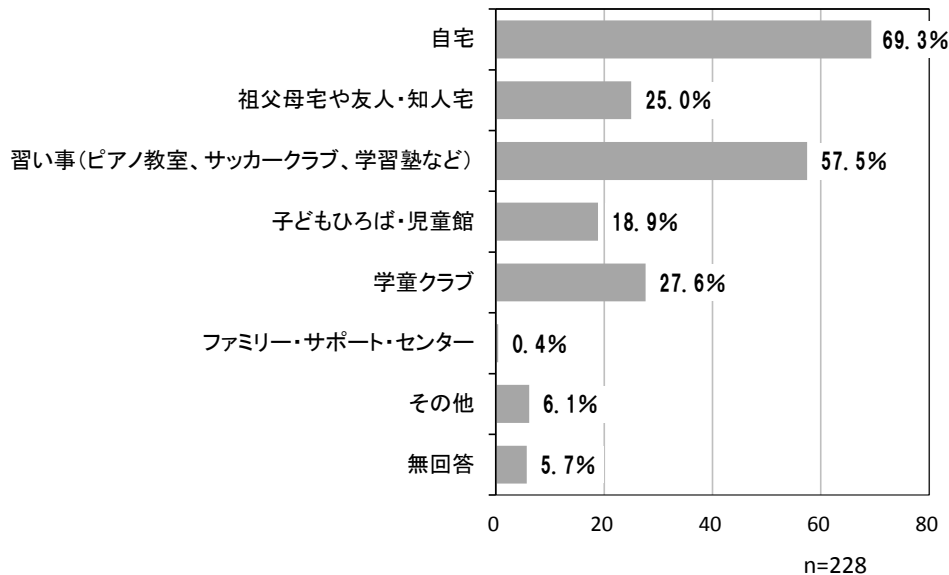
小学校低学年時における放課後の過ごし方の意向



高学年（４～６年生）時の放課後の過ごし方

○高学年時における過ごし方としては、“自宅”が最も多く 69.3%、次いで“習い事”57.5%、“学童クラブ”27.6%などとなっており、低学年時に比べると“自宅”や“習い事”が高い一方で“学童クラブ”へのニーズが低くなっている。

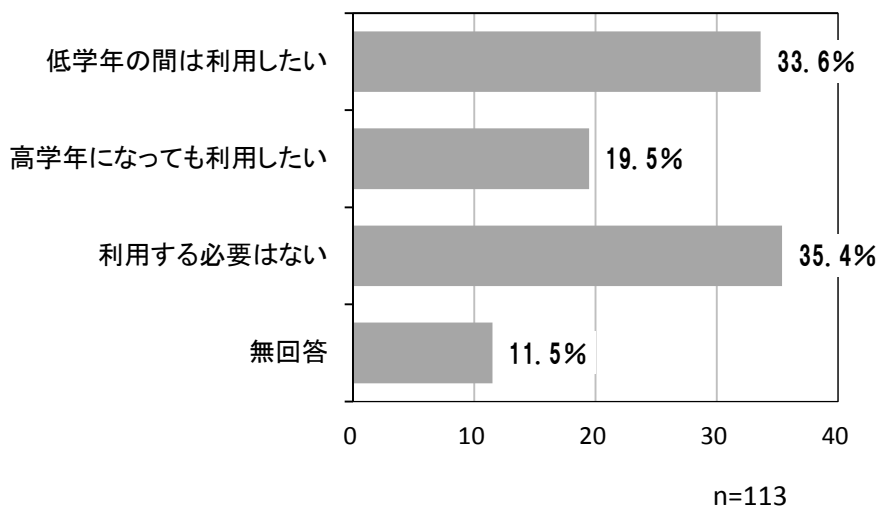
小学校高学年時における放課後の過ごし方の意向



土曜の学童クラブの利用意向

○土曜の学童クラブの利用意向については、“利用する必要はない”が35.4%、次いで“低学年の間は利用したい”33.6%、“高学年になっても利用したい”19.5%となっている。

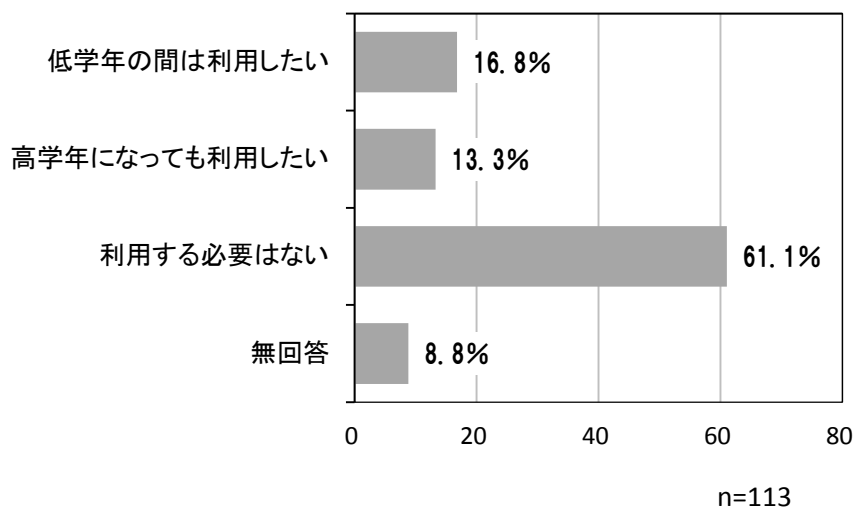
土曜の学童クラブの利用意向



日曜・祝日の学童クラブの利用意向

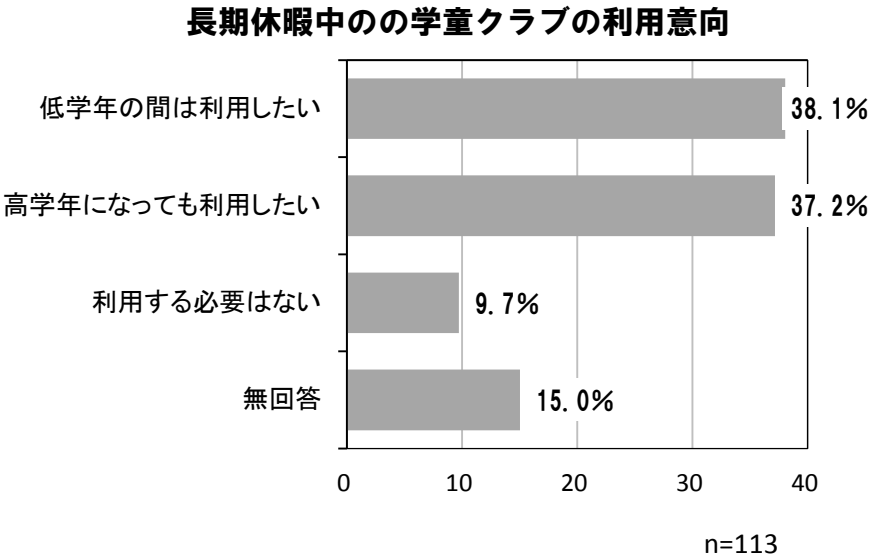
○日曜・祝日の学童クラブの利用意向については、“利用する必要はない”が61.1%で、“低学年の間は利用したい”“高学年になっても利用したい”はいずれも15%前後となっている。

日曜・祝日の学童クラブの利用意向



長期休暇中の学童クラブの利用意向

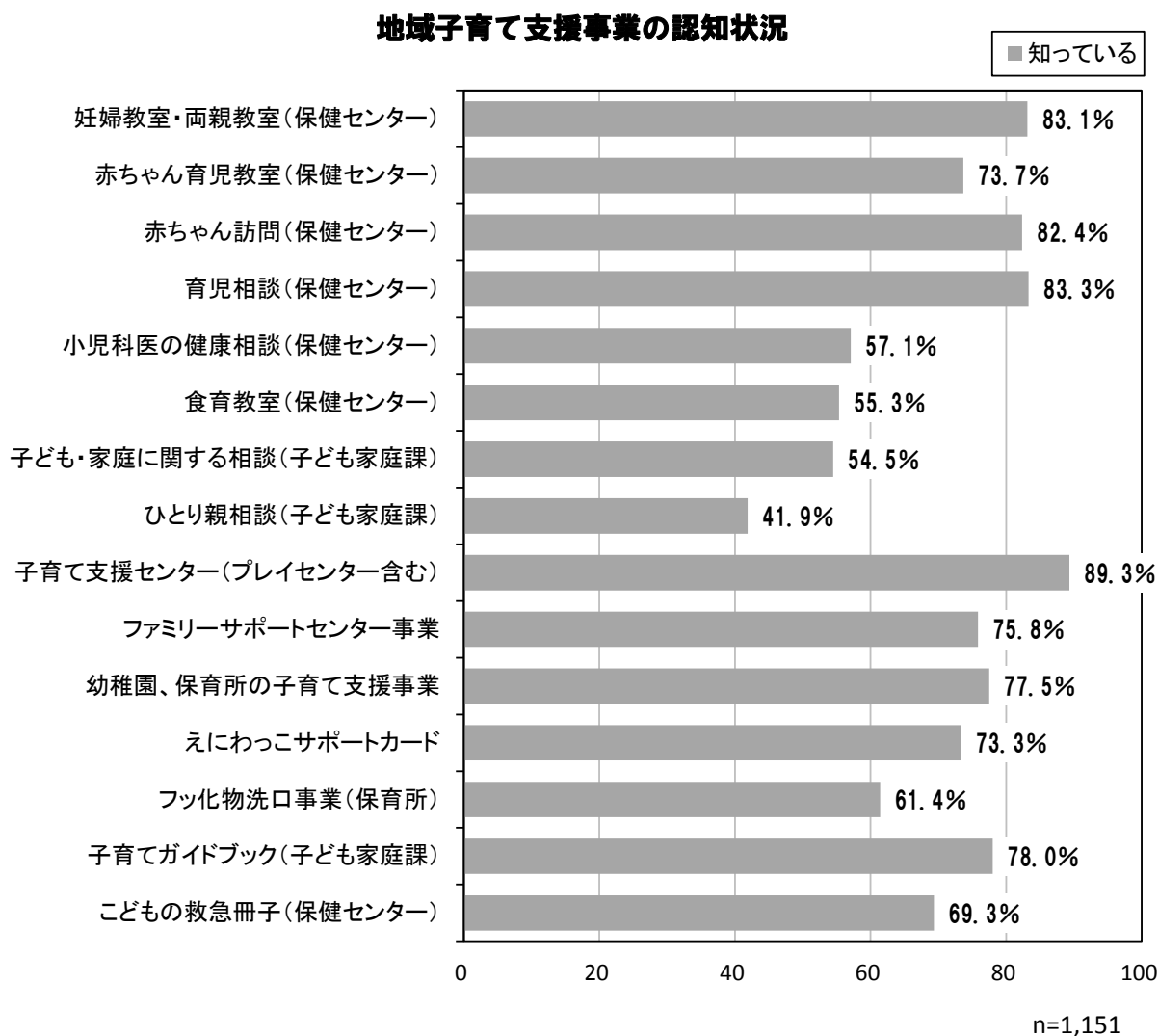
○長期休暇中の学童クラブの利用意向については、“利用する必要はない”は9.7%と少なく、“低学年の間は利用したい”“高学年になっても利用したい”がいずれも40%近くとなっている。



地域の子育て支援事業の利用状況

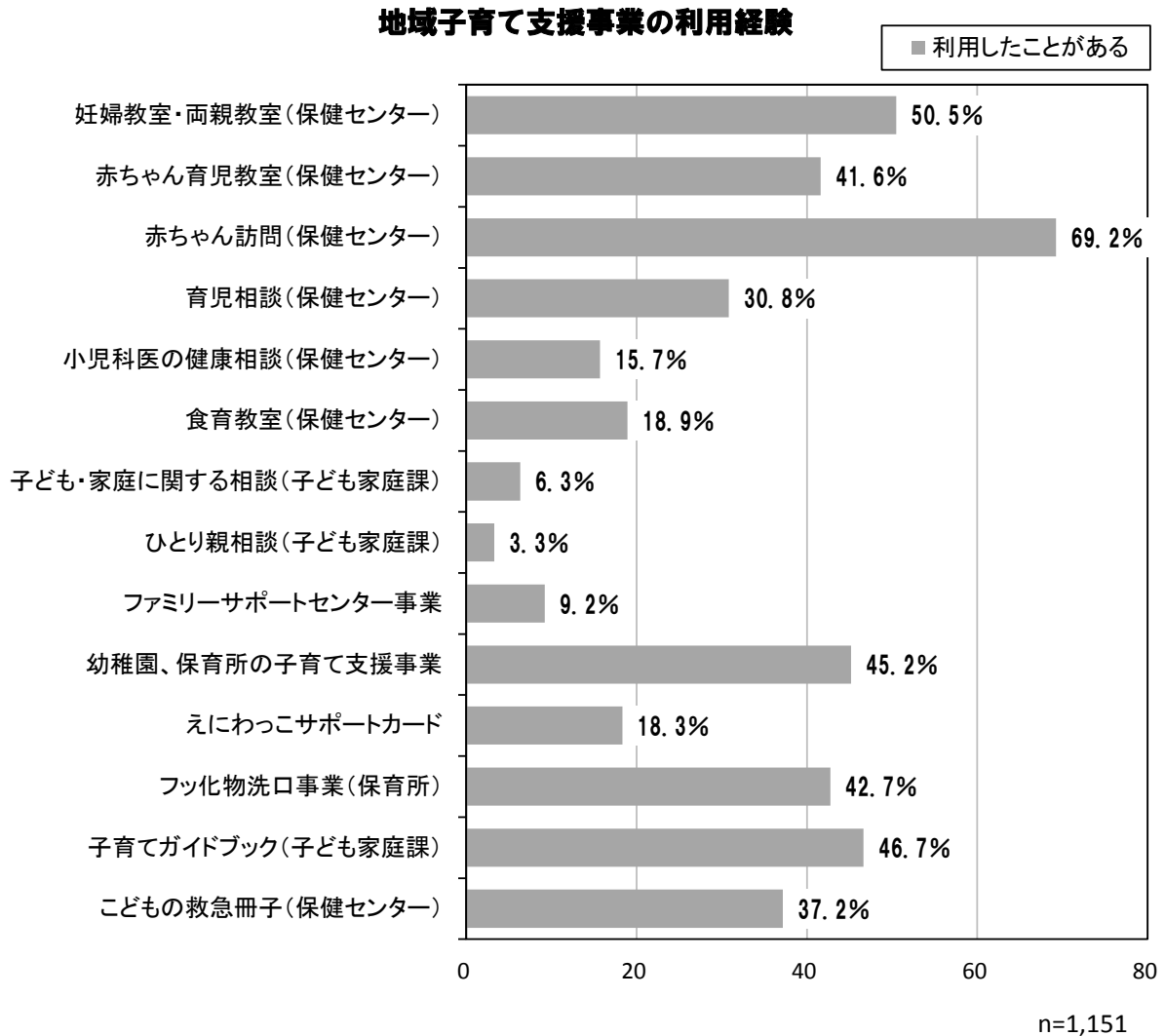
子育て支援事業の認知状況

○子育て支援事業の認知状況については、“子育て支援センター”が最もよく知られており 89.3%、逆に最も知られていないのは“ひとり親相談”で 41.9%となっており、これを除くすべて事業が半数以上の人に知られている。



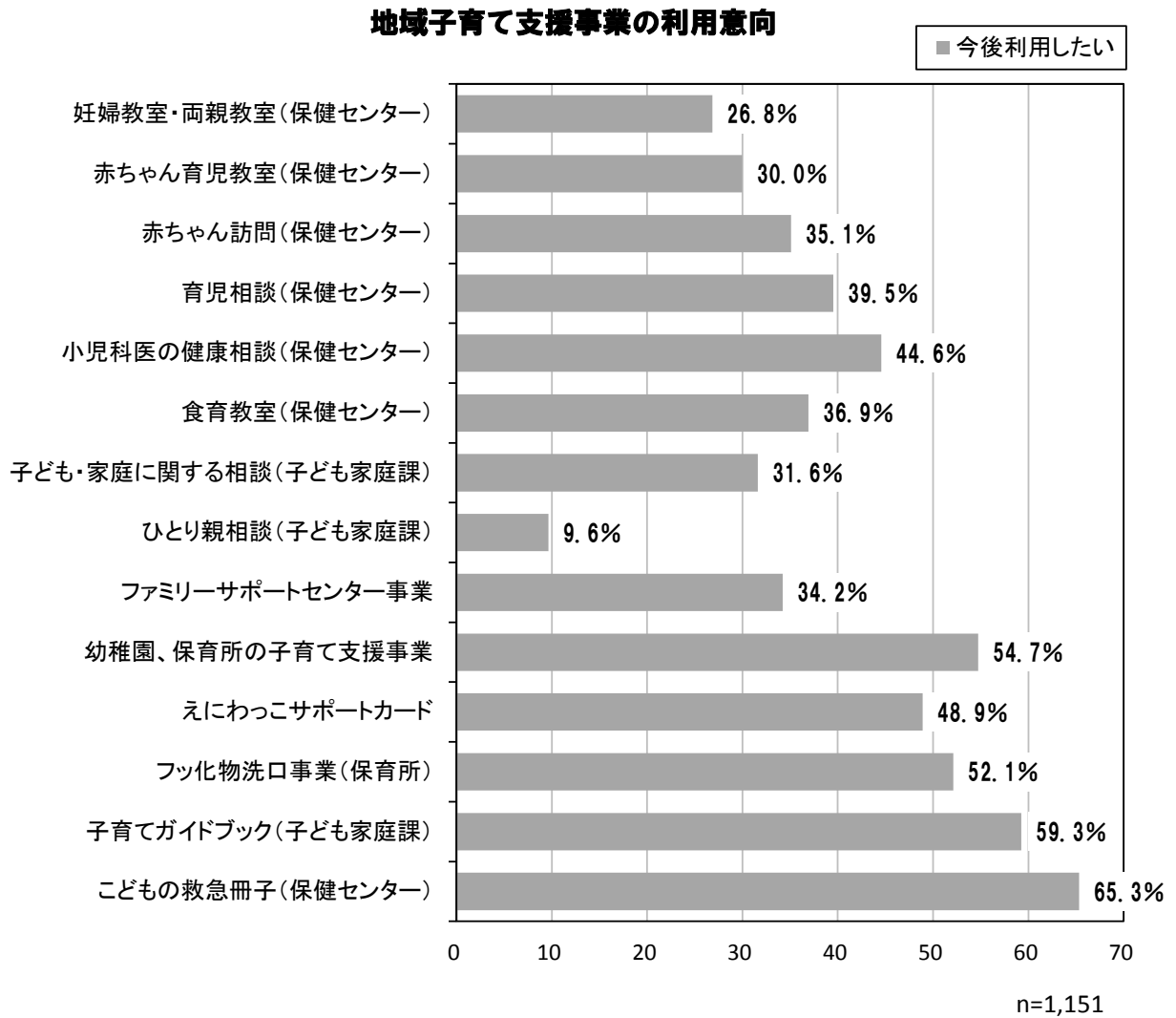
子育て支援事業の利用経験

○子育て支援事業の利用経験については、“赤ちゃん訪問”が最も利用されており 69.2%、逆に利用経験者が少ないのは“ひとり親相談” 3.3%、“子ども・家庭に関する相談” 6.3%、“ファミリーサポートセンター事業” 9.2%などとなっている。



子育て支援事業の利用意向

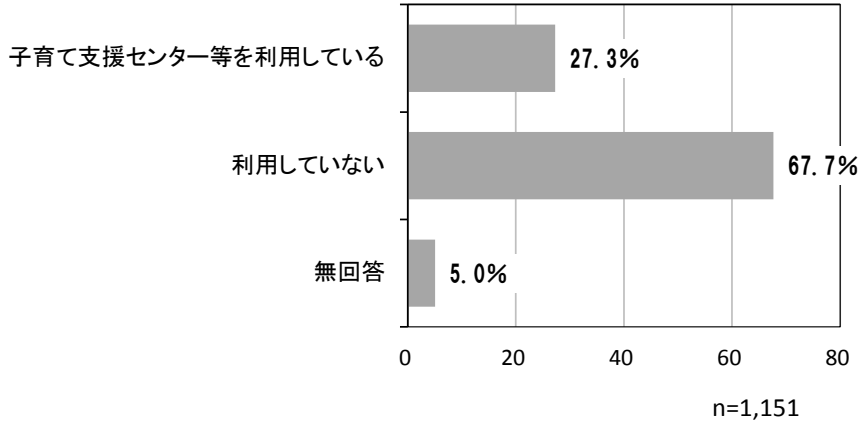
○子育て支援事業の利用意向については、“子どもの救急冊子”が最も高く65.3%、次いで“子育てガイドブック”59.3%など、手元における情報媒体へのニーズが高くなっている。



子育て支援センターの利用状況

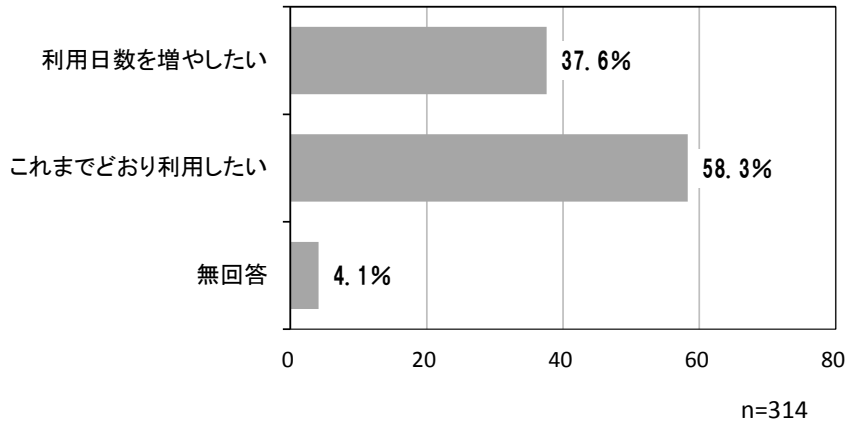
○子育て支援センターの利用状況については、“利用していない”が67.7%、“利用している”が27.3%となっている。

子育て支援センター等の利用状況



子育て支援センターの利用意向（利用中の人）

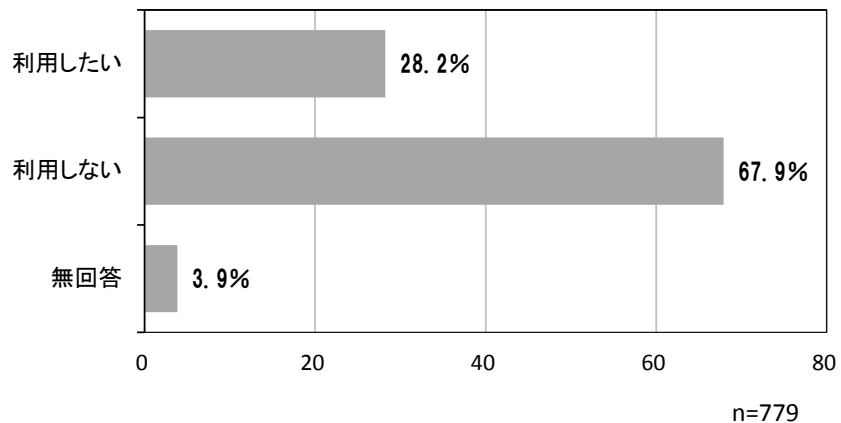
子育て支援センター等の今後の利用意向（利用中の人）



子育て支援センターの利用意向（利用していない人）

○現在は利用していない人の28.2%が“利用したい”と考えている。

子育て支援センター等の今後の利用意向（利用していない人）

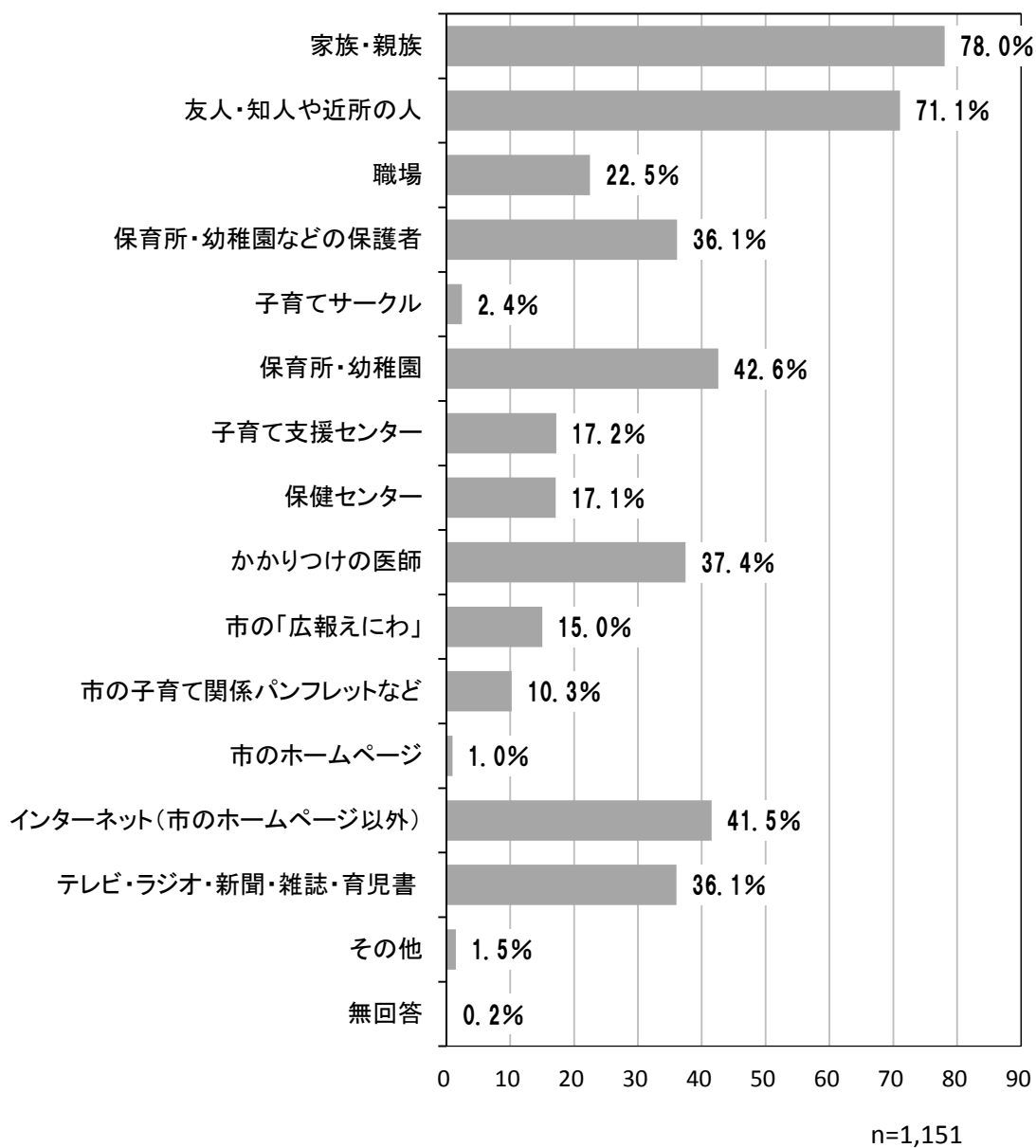


子育て全般について

子どもの健康に関する情報の入手先

○子どもの健康に関する情報の入手先としては、“家族・親族”“友人・知人や近所の人”が 70～80%と多い。

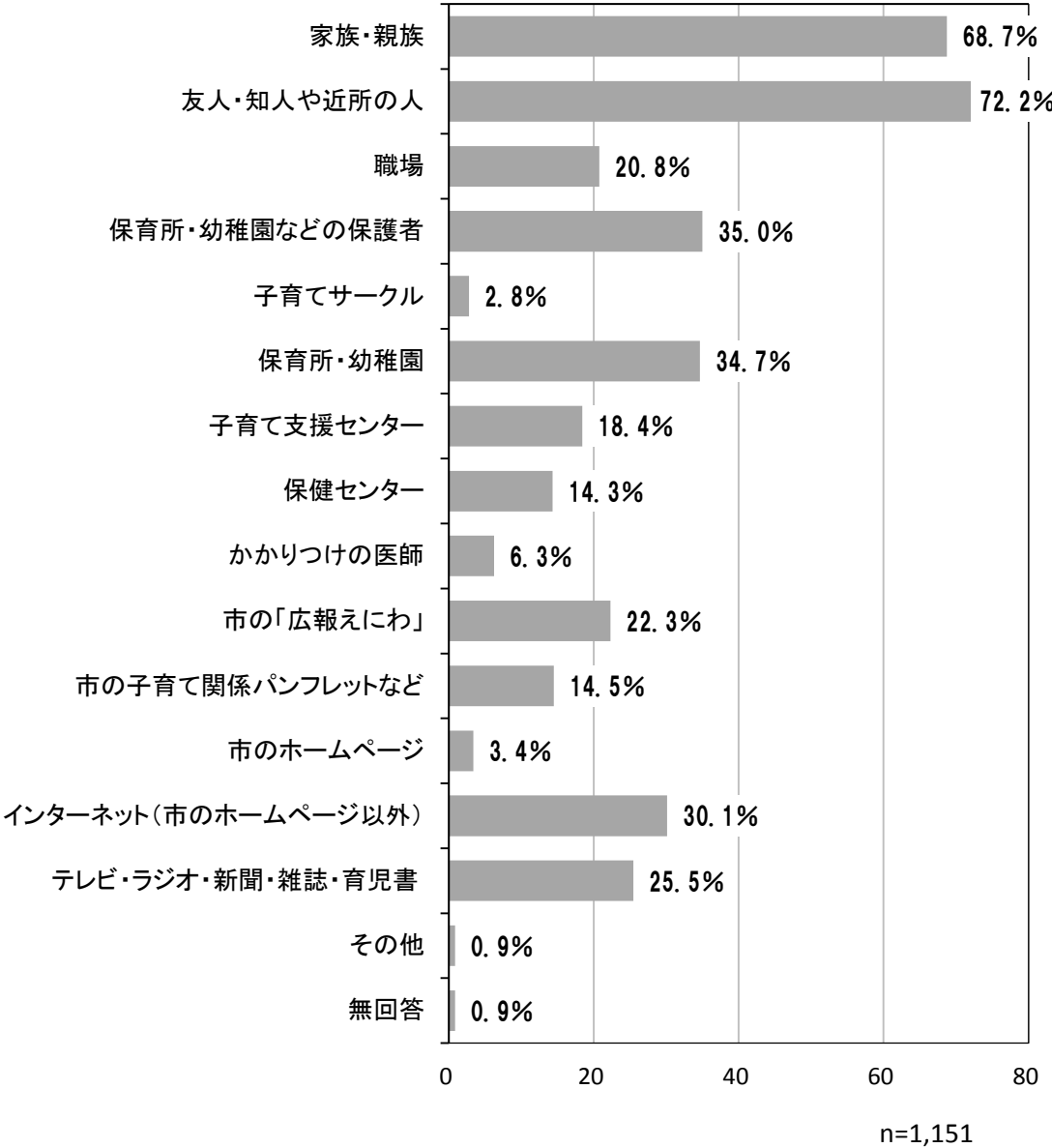
子どもの健康に関する情報の入手先



子育てに関する情報の入手先

○子育てに関する情報の入手先としては、“家族・親族”“友人・知人や近所の人”が70%前後と多い。

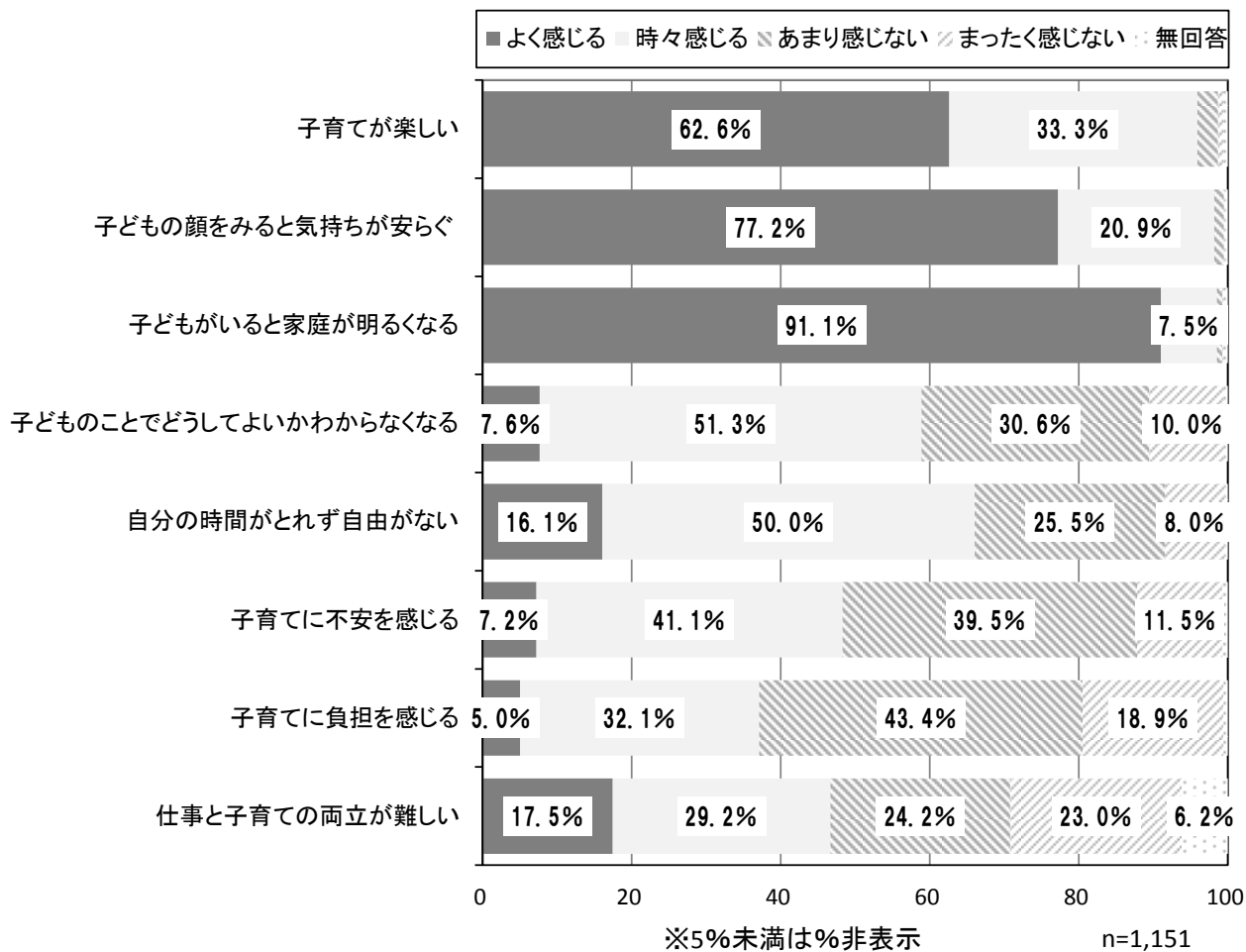
子育てに関する情報の入手先



子育てをされていて感じること

○ほとんどの人が“子育ては楽しい”“子どもの顔をみると気持ちが安らぐ”“子どもがいると家庭が明るくなる”と感じている反面、“自分の時間がとれず自由がない”“子どものことでどうしてよいかわからなくなる”と感じることがある人が過半数を占めている。

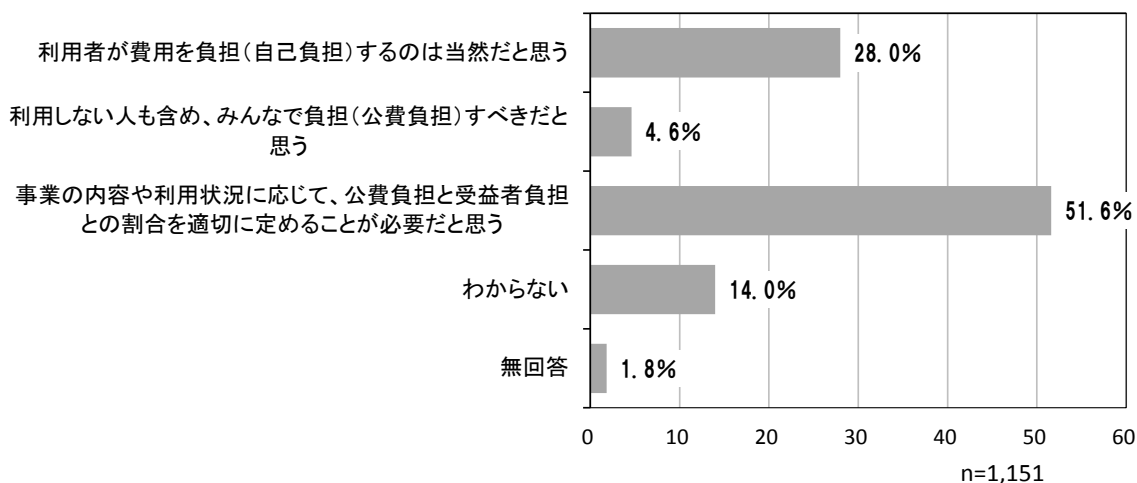
子育てをされていて感じること



利用者が事業の費用の一部を負担するという考え方について

○利用者が事業の費用の一部を負担するという考え方について、“事業の内容や利用状況に応じて、公費負担と受益者負担との割合を適切に定めることが必要だと思う”が51.6%と半数を占め、次いで“利用者が費用を負担（自己負担）するのは当然だと思う”28.0%となっている。

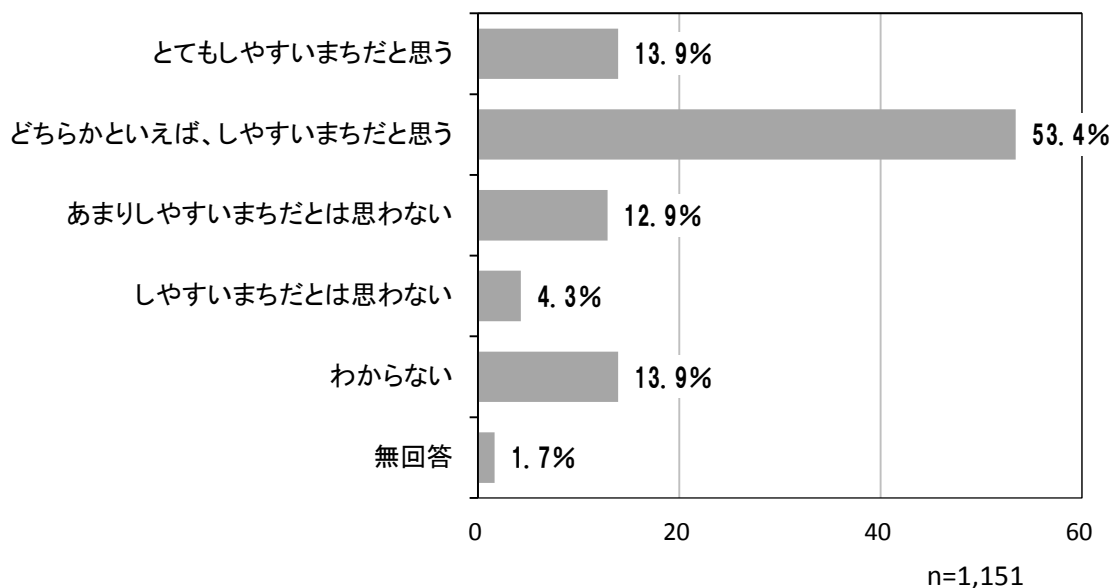
利用者が費用の一部を負担するという考え方について



恵庭市は子育てがしやすいまちだと思うか

○恵庭市における子育てについて、“とてもしやすいまちだと思う”13.9%、“どちらかといえば、しやすいまちだと思う”53.4%を合わせると、70%近くの人が恵庭市は子育てがしやすいまちだと感じている。

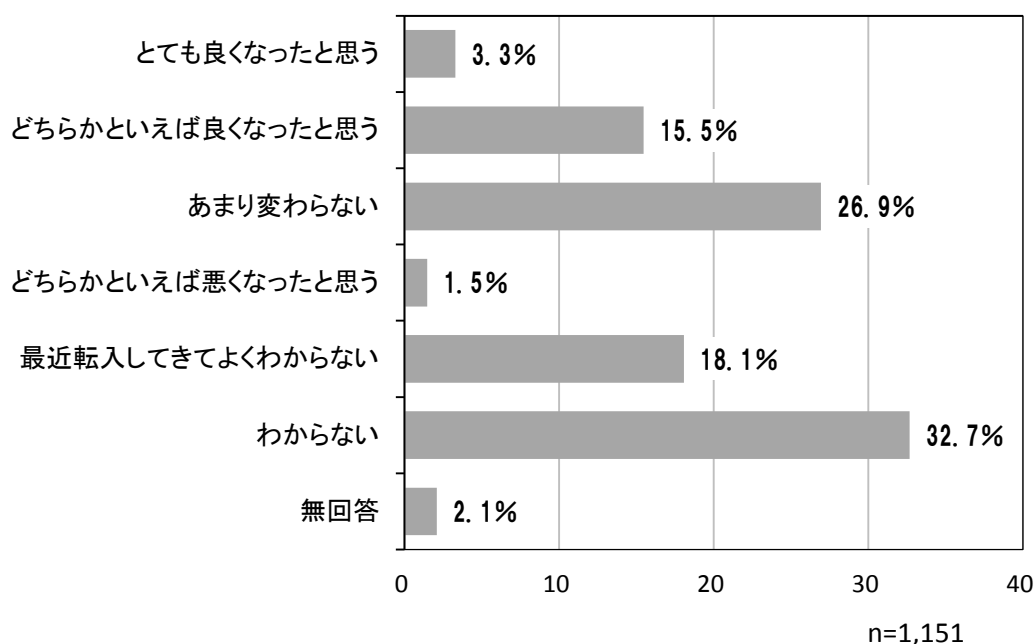
恵庭市は子育てがしやすいまちだと思うか



恵庭市の子育て環境は良くなったと思うか

○以前（3～5年前）に比べての恵庭市の子育て環境について、“あまり変わらない” 26.9%、“どちらかといえば悪くなったと思う” 1.5%に対して、“とても良くなったと思う” 3.3%と“どちらかといえば良くなったと思う” 15.5%を合わせると 20%近くの人が子育て環境が良くなったと感じている。

恵庭市の子育て環境は良くなったと思うか



恵庭市が今よりも子育てしやすいまちになるために力を入れるべきこと

○今よりも子育てしやすいまちになるために力を入れるべきこととしては、“保育・放課後児童保育サービスの充実”が最も多く50.0%、次いで“子どもなどの安全の確保”28.5%、“親と子のこころとからだの健康づくり”22.1%などとなっている。

恵庭市が今よりも子育てしやすいまちになるために力を入れるべきこと

